第36回
’25選抜女子駅伝 北九州大会

□期　日／2025年１月19日（日）
□コース／小倉北区・小倉城歴史の道―
八幡東区・前田二丁目西交差点
折り返し　27.2km
一般の部５区間　高校の部６区間

高校の部　たすきをつなぐ神村学園の５区・瀬戸口凜（右）と６区・小倉陽菜

一般の部

京セラ22年ぶり優勝

京セラのアンカー、黒田澪は、トップの積水化学と 18 秒差の２位でたすきを受けた。程なくして高校の部の神村学園にかわされ、全体３位に後退したが、高校生の背中についていく感覚で、積水化学を追う作戦に出た。

残り２㌔ぐらいにある最後の下り坂を勝負どころと考え、積水化学の荒井優奈を捉えると一気に抜き去り、チーム２度目となる優勝のフィニッシュテープを切った。昨年の大会でアンカーとして１位でたすきを受けながら、２位に終わる悔しさを味わったが、今大会ではレース展開を冷静に見極めて 22 年ぶりの優勝をつかみ取った。

チームは今大会「優勝を狙う」と宣言して挑んだが、入社１、２年目の選手が多く、発展途上だ。「勝ち切るという経験が必要だった」という指揮官の期待に見事応えた。

若松誠・京セラ監督「今回は勝つぞって話をして乗りこんできた。（優勝の）経験をできたのが大きい収穫」

一般の部　１位でフィニッシュする京セラのアンカー・黒田澪

高校の部

神村学園２年連続　全体１位

４区で神村学園３年生の黒神璃菜が立命館宇治から 11 秒差でたすきを受け取ると、２㌔過ぎで立命館宇治をかわし、２年前に自身が樹立した区間記録を８秒上回る快走を見せた。続く５区を任された２年生エース、瀬戸口凜は序盤から積極的に飛ばし、３年生のアンカーの小倉陽菜にたすきを渡す直前で、全体の先頭に立った。高校の部の３連覇は史上６校目。２年連続一般の部を上回る好タイムを記録し、３年連続６回目の優勝を手にした。

昨年 12 月の全国高校駅伝で神村学園は５位に終わり、連覇を逃しただけでなく７年ぶりに３位以内も逃していた。コンディション不良の選手も出て大会に臨んでしまったために、「手洗い、うがいやあいさつが雑にならないようした」と生活習慣から改善を図り、レースに臨む姿勢を見直してきた。結果として全員が区間５位以内という安定した走りで、チーム全体のひたむきな取り組みが、勝利をたぐり寄せる結果となった。

有川哲蔵・神村学園監督「この１年間で選手がしっかりと力をつけてきてくれた」

出典：毎日新聞